

Case 2-2006: A 31-Year-Old, HIV-Positive Man with Rectal Pain
(Volume 354: 284-289)

【症例】31 歳男性 【主訴】直腸痛、直腸膿性分泌物

【Problem list】

#1. 直腸痛、直腸分泌物

受診時、4 日間持続する直腸痛と膿性分泌物。排便時痛、血便を認め、また嘔気、倦怠感があるが、熱はない。今回の症状はこれまでで初めて。

#2. HIV

HAART 導入後、1 年経過。現在 CD4 値改善 (1 年前受診時 6、現在 188)、播種性 MAC、Kaposi 肉腫の寛解に示されるように、免疫能は明らかに改善している。

#3. STD

これまで、HIV、HSV、HPV 感染歴あり。また現在も肛門性交を多数のパートナーと行っており、リスクが高い。現在も肛門周囲にコンジローマが認められる。

#4. リンパ節腫脹

頸部、鼠径リンパ節軽度腫脹